

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100244		
法人名	医療法人 社団 輔仁会		
事業所名	グループホーム ゆいまーる松川		
所在地	沖縄県那覇市松川301番地3F		
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 10 日	評価結果市町村受理日	平成27年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvovsvoCd=4790100244-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成26年 12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>心を尽くし(優しく心に寄り添うケアを行います) 精神を尽くし(助け合いのたわり合い、穏やかな生活を共にします) 思いを尽くし(その人がその人らしく暮らせるよう、また地域の一員としての相互関係が築けるよう支援します) 力を尽くし(プロフェッショナルな技術を活かし、きめ細やかなケアを行います) ・上記の理念に沿ったケアに常に貪欲に取り組んでいます。 ・睡眠薬に頼らず、生活のリズムを整えたり、日中の活動を充実させる事で、自然の入眠につながっています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の理念に沿い「寄り添うケア・穏やかな生活、その人らしく、プロフェッショナルな技術」を実践に努めている。職員の法人内異動が定期的実施され、活動の一部を中断している状況の中でも、入居者一人ひとりの「Wish・Day」への取組は継続している。職員は、入居者の思いを把握する為、入居者との1対1の場を増やし、話しやすい環境を整え、意向を引き出すよう努めている。入居者の言葉を連ねて思いを検討し、例えば「旅行」や「民謡酒場」等への外出に繋げた事例がある。また、地域関係者の理解が後押しし、恒例行事への参加や地域活動等の相互協力に至っている。事業所内は入居者の生活場面に考慮した造りになっており、特に廊下の壁には入居者の興味をそそる言葉等を掲示している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日:平成27年2月3日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新職者には入職の際にオリエンテーションにて、時間をかけて、法人の理念と、グループホーム独自の理念について説明を行っている。思念に沿った支援ができていくかどうか、常に考えケアに反映できるようにしている。	理念は事業所開設時に職員間で検討し作成している。管理者は新職員に対して理念を説明する際は「家でどう過ごしたいか、考えてほしい」との思いを伝えている。日常業務の中で良い対応の場合は褒めて、気に懸る場合は注意する等で共有を図っている。職員も常に原点に戻ることを心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入している。自治会の掲示板も施設敷地内に設置されていて、活動の把握もでき、その中で、清掃祭への参加を毎年継続している。また保育園との定期的な交流も行っている。	地域の行事等への参加や清掃等への協力はこれまで通り継続している。今年度は地域の三味線クラブの活動を、地域公民館改築期間中は交流室で行なえるよう協力をしている。また、入居者馴染みの近隣の商店街へ一緒に買物に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	これまで同様、家族を対象として法人が行っている、月一回の勉強会のチラシを配布し参加を促している。また、自治会の三線クラブの練習場所として、交流室を提供し、入居者との交流を通して理解してもらえるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。 評価及び、目標に対しての進捗状況を、委員会で報告している。	会議は偶数月で利用者や家族、地域関係者参加の下開催している。家族等に配慮した時間を設定し、家族の複数参加に繋げている。会議は、毎回8つの議題に沿って進行し、議事録も議題に沿う結果報告の形式となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	那覇市のグループホーム連絡会に毎回参加し担当職員との情報交換を行っている。	運営推進会議に行政担当者は毎回参加し、事業所の報告等を受ける等情報交換をしている。会議への案内文は、入居者も一緒に担当課へ届けている。市のグループホーム連絡会で、行政等への疑問、質問等を事前に出し、共に協議、検討の機会を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを利用し、ミーティングにおいて独自の勉強会を持ち、日々のケアの中で確認を行っている。	身体拘束をしないケアを事業所の方針とし、関係書面で明示して利用開始時に家族等へ説明している。職員も「虐待防止法関連」の勉強会等で理解に努めている。職員間で利用者の「帰りたい」の訴えにはどう対応するのか等、情報を共有して対応している。	

沖縄県(介護サービスセンターゆいまーる松川 グループホーム)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回のミーティングにおいて、課題を決め勉強会を行っている。その中で虐待防止法関連を課題として取り上げ、独自に勉強会を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名が後見人制度を利用している。利用開始前には、ミーティング等において勉強会を行い、しっかり理解できるようにした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、重要事項の説明を時間をかけて行い、各項目に対して十分な説明を行い、納得して頂いたうえで契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会に参加してもらったり、要望や希望がきけるように、意見用紙を家族便りと一緒に発送している。	入居者一人ひとりとはコミュニケーションを図り、家族からは運営推進会議等で述べる意見等で把握している。例えば、以前のように生け花をさせたいとの声には、家族持参の花を入居者に生けてもらい、法事に参加させたいので送迎してほしいの要望には、職員が同行等で応えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを月1回の定例と、緊急、または必要時に行っている。その中で出た意見や要望は、なるべく反映できるようにしている。	職員の意見は定例会議や自己評価、年2回の人事考課等で把握している。職員は契約から正職への処遇改善があり、職員によっては資格取得等努力次第で「目標」を実現できる環境を整えている。職員の異動は法人内で決定され、報告は入居者の混乱にも配慮し伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価や人事考課を毎年2回実施。契約から正職への処遇改善を、年度の事業計画に挙げ、やりがいをもって働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や、その他の研修も参加できる機会の確保(勤務の調整)に努めている。		

沖縄県(介護サービスセンターゆいまーる松川 グループホーム)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	那覇市のグループホーム連絡会に毎回参加し情報交換を行、ケアの参考にする事もある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談の申し込みがあれば、インテークに時間をかけ、何回か自宅や、利用中のデイサービス等を訪ね、本人や家族の要望、困っている事を話して頂けるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	導入の前に、サービスの利用に至る経緯等を伺い、本人や家族間でのニーズの相違がないように慎重に入居までの支援をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅への訪問の際や、見学を兼ねたホームでの相談の際には、いづれもリラックスして話が出来するような雰囲気作りをする事でニーズが引き出せるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事は、入居者と職員と一緒に摂れるようにしている。時には一緒にベッドで添い寝をしたり、いつでも対話ができるような距離感を保てるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係が入居前と変わらないように、家族でできる支援、特に病院受診の付添をもらったり、家族の外出に職員がついて行ったりと、関係の継続ができるような距離感が保てるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や、昔馴染みの方が訪ねて来た場合には、インフォーマルな関係が構築できるように支援している。	入居者を訪ねて来られる友人、知人を受入れている。入居者個別の計画に昔馴染みの方との関係維持の支援や、行きつけの美容室利用等を位置付け支援している。また、入居者を安心させる為、数十年の付き合いのある主治医の先生との受診日以外の面会を支援している。	

沖縄県(介護サービスセンターゆいまーる松川 グループホーム)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室にはテレビは置かず、部屋にこもる事がないよう支援している。また利用者間の関係にも配慮し、かつ偏りのないように、テーブルやソファの配置換えも行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の他のサービス利用がスムーズにいくような協力を行っている。退去後も時々状況電話で尋ねるなど、フォローの体制は継続している事を知ってもらえるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で表出する感情や、言葉から希望や意向の把握ができるように努めている。WishDayの実施も引き続き行っている。	入居者がリラックスして話せる雰囲気作り、または、一緒にベッドで添い寝をして、いつでも話や思いが聞けるよう努めている。入居者一人ひとりの思いは「Wish day」の実現に繋げている。周囲との関りを拒む入居者には、相性の合う職員が対応する等で配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居年数の長い方がほとんどで、入居してから現在まで、本人や家族とのコミュニケーションにより大よその把握はできている。不穏時や焦燥時にその情報をもとにした対話で安心に繋げる場合も少なくない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的にはそれぞれのペースで過ごして頂いている。日によって、心身状態の変化する事もあり、活動はその日の状態を考慮し、出来る事であっても無理な促しは行わない様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	変化があればその都度家族、主治医、担当職員でケアについて話し合い、意見やアイデアは計画書に反映できるようにしている。	職員は入居者個別に生活援助や家族対応等を担当し、記録は全員が関わっている。個別の状況報告書の作成や、2か月毎にモニタリングを実施しているが、個別計画に沿ったサービスの実施が記録から確認できない。また、計画の見直しは更新時に実施している。	入居者個別の計画に沿ったサービス実施状況の記録が求められる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を基に、担当職員が月毎の報告書を作成し、職員間での情報の共有ができるようにしている。報告書を作成する事で、気づきへの導きになるような指導も行い、報告書の中身が、実践につながったり、計画書の見直しのきっかけになったりする。		

沖縄県(介護サービスセンターゆいまーる松川 グループホーム)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の付添や送迎等は、家族の状況に合わせて柔軟に対応している。法人内の他事業所での行事の参加にも柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容室の訪問散髪を利用したり、中学生の職場体験を受け入れたり、自治会の方の三線サークルの練習所として、場所を提供したり、地域包括支援センターとの連携により、週一でのボランティアに繋がったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者9名が同敷地内にあるクリニックの医師を主治医とし、定期受診や健康診断、緊急時の対応をもらっている。受診の際は、バイタルのデータや変化についての報告を行い、常に連携をとりながら、協同での入居者の管理を行っている。	入居者全員が今までのかかりつけ医となっている。受診は家族同行を基本とし、文書や口頭にて情報提供している。他科受診時には送迎の支援や必要に応じて職員が同行している。受診後は家族から口頭で情報を受け、申し送り帳に記録し全職員で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護の配置はないが、法人内の他事業所の看護師が対応できるように、日頃より情報の提供を行い連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中も馴染みの関係が維持できるように、まめに職員全員が面会に行き、必要ならば食事の介助のお手伝いや、又状態が変化した際のPTやSTの指導を受けたりする事もある。退院時のカンファレンスにも必ず参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	これまでに終末期の対応はないが、事業所の指針を話し、納得してもらった上で書面にて対応の確認を取っている。主治医との話し合いも常に行っている。	重度化や終末期についての指針を「看取り介護の説明書」で家族に伝え、「緊急時における対応や治療に関する意見確認書」としている。また、事業所として医療的処置を必要とする場合は対応は厳しいことも伝えている。入居者の状態に応じて家族や主治医との話し合いは常に行い、職員研修等も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練としては、誤嚥の際の吸引や対応、転倒時の初期対応を行っている。年1回法人内での救急救命の講習会への参加もしている。		

沖縄県(介護サービスセンターゆいまーる松川 グループホーム)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回、消防署の立会いの下、同一建物内の事業所や近隣の母体である病院からも参加している。天災についての訓練は未だ行っていないが、今後検討課題とし計画する予定はある。	年2回、消防署の協力を得て日中想定避難訓練を入居者、母体病院の職員、同一建物内事業所からの参加で実施している。自主訓練の取組や地域の防災訓練等へは参加しているが、夜間を想定した訓練や、地域住民の訓練への参加は確認できない。	災害対策として、年2回以上の昼夜想定避難訓練の実施や、地域住民との協力体制が求められているので、今後の取組に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いの中から出てくる言葉使いに対しては、職員各自が意識するようにしている。常に人生の大先輩である事を意識するよう心掛けている。	管理者は、理念の実践について支援の場面で気付いたことや気になること、良い場面等を通して一人ひとりの尊重やプライバシーの確保等、具体的に職員へ伝えられている。入居者の主張や言葉にならない訴え、不安等に職員は寄り添い、工夫し言葉かけに注意する等、一人ひとりに合わせて支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な会話からも、希望や思いうい聞き出せるような対話を意識して行っている。個別での対話は普段聞き出せないような希望の言葉を見いだせる事もある。なるべく、生活のすべてが自己決定できるような支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活全般をその人の主体性や、自主性によって決定できるような支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替える事で、生活のメリハリができるように、まめな支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけは、入居者にもできる事は手伝ってもらうようにしている。	食事は法人施設で調理され、受取時は入居者が同行している。入居者は当番制で車中では一人ひとりの思いや希望を聞く機会にもなっている。スーパーや馴染みの栄町市場での食材の買い出しや食事の準備、下ごしらえ等一人ひとりの力を活かしながら支援している	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量・水分摂取量のチェックをその都度記録している。水分の補給に関しては、心身の状態に深く関わるので、嚥下状態の悪い方にはゼリーにしたり、トロミ剤を使用したりして、1日1.5リットル以上の水分補給ができるようにしている。		

沖縄県(介護サービスセンターゆいまーる松川 グループホーム)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをしている。義歯は每晚洗浄除菌のための浸け置きを実施。また口腔の状態の変化は、その都度家族に報告し、歯科受診対応をしてもらったり、状態の変化により食事の摂取量が減らないように配慮している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック用のボードをトイレ毎に設置し、排泄のパターンを把握した上で、定期的な排泄の促しとトイレ誘導を行っている。日中は極力綿パンツの使用を勧めている。	排泄のパターンを把握したうえで、自尊心に配慮し、一人ひとりのサインを全職員が察知してトイレ誘導している。排泄時はタオルをひざかけにするなどプライバシーに配慮している。夜間、頻尿になる方の排泄支援では排泄の記録や排泄パターン、習慣、観察等で原因を探り、頻尿の改善へ繋げた事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎夕食にカンテンゼリーをメニューに加えてもらったり、日中はなるべく体を動かすよう、1日2回の体操と、全体及び個別での歩行訓練や、屋内・外の散歩もしていただけるようにしている。便秘により食欲の減退とならないように、便秘薬を飲んで頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の支援は毎日行っているが、本人が入りたい時に入れるように支援している。	入浴は個浴で同姓介助を基本とし、一人ひとりの希望に合わせて支援している。入浴を拒否する方の入浴拒否の理由(汚れた下着を見られたくない)を知ることなどで気持ちに寄り添い、対応を工夫し支援に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や就寝の時間は、それぞれの生活習慣によって異なるので、それぞれに合わせた支援をしている。休息の時間も本人のペースを基本としている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明書はホームでも保管している。入居者それぞれの担当職員が薬の管理とセッティングをし、3か月に担当を変える事で、職員全員が入居者の服用に関して把握ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事への制限はほとんどせず、それが例えば夜のドライブであっても、対応できるようにしている。生活歴を考慮した支援としては、主に手作業の際に行っている。		

沖縄県(介護サービスセンターゆいまーる松川 グループホーム)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	最低でも週1回は外出が出来るようにしている。 生まれ育った地域へのドライブへもやっている。 又長距離のドライブは家族が参加したり、地域の施設見学の際には、地域の方がボランティアで同行してくれる事もある。	日常的には馴染みの店での買い物や、ドライブに出かけている。入居者一人ひとりの思いを把握し「Wish・Day」として故郷訪問や民謡酒場へ行く等を実践している。その他、施設見学(ゆいレール博物館、対馬丸記念館)や、モノレール乗車体験、お花見等家族やボランティアの協力も得ながら外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は家族が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は好きな時にかけられるようにしている。 遠方の家族には、手紙やはがきを書いてもらい、一緒に投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に過ごしやすいように配慮している。 季節を感じられるように、ホーム内を時期に合わせた飾りつけをするようにしている。	玄関前はクリスマスツリーやタペストリー、フロア内壁には入居者の作品等で季節を装飾している。ソファをフロア内には数台、廊下奥の窓際にも設置し、入居者が1人や数人等、思い思いに利用し過ごしている。廊下の壁には早口言葉やダジャレの窓等、入居者が楽しめるよう掲示物を工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内にはソファを4台置き、いつでも寛げるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広めにとっていて、家族が大勢で訪ねて来られる事もあり、時には洋間が簡易畳をひき小、ハイハイ時期の赤ちゃん連れでもゆくりできるようにしている。家族写真を飾ったり、自宅で使用していた家具を持ち込んだり、お線香をたかに条件で、仏壇を持ち込んだりと、居心地良くくらしを頂けるようにしている。	居室は備え付けのタンスやベッドがあり、写真や思い出の品々が飾られ、中には仏壇を持ち込まれている方もおりその人らしい居室作りがされている。居室の環境整備や衣服の管理等は本人や家族と相談しながら調整している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全体がバリアフリーになっていて、居室までの通路はくまなく手すりを設置し、一人でトイレやリビング居室を自由に往来できるように配慮している。		